「日中英トライリンガル人材の育成」に取り組む杏林大学

杏林大学教授・国際交流センター長　塚本 慶一
TSUKAMOTO Keiichi

キーワード：　通訳・翻訳者育成、中国語、大学間交流

杏林大学は医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部と大学院（医学研究科、保健学研究科、国際協力研究科）をもつ総合大学です。文部科学省のグローバル人材育成推進事業校として、「中国語圏で活躍できる卓抜した語学力とスマートでタフな交渉能力を兼ね備えた日中英トライリンガル人材」を育成することを目指しています。この「日中英トライリンガル人材の育成」に中心的に取り組んでいるのが、外国語学部中国語学科の「日中通訳翻訳プログラム」と、大学院国際協力研究科国際言語コミュニケーション専攻の「日中通訳・翻訳研究コース」です。本稿では、本学におけるこの分野での人材育成の取り組みや国際学術交流の実績などを紹介いたします。

（一）　通訳者･翻訳者を養成する日本初の大学院コース

各分野でのグローバル化が進む中で、高度で実践的なコミュニケーション能力を有する人材がますます求められるようになってきています。このような社会の強い要請に応え、本学は2009年4月に通訳、翻訳、言語コーディネータのプロフェッショナルを育成する修士課程として「国際言語コミュニケーション専攻―日中通訳･翻訳研究コース」を開講し、更に2011年4月より博士課程も新たに開講しました。これまで修士課程を修了した卒業生の中には、大学の講師やフリーランスの会議通訳者として活躍したり、大手外資企業や日中関連団体に就職したりする者もいれば、現地中国で大学の教員として勤めている者もいます。

こうした結果が出ていることは、通訳者･翻訳者を養成する日本初の大学院コースとして国内外の関係各界の注目を集めていることを物語っています。実力、資格、学位の３つを併せ持つ高度な言語運用能力を備える人材を育成する本格的な取り組みが着実に始まっているのです。

（二）　通訳・翻訳者養成を目標に掲げた学科としての中国語学科

上記の大学院での専門的な訓練を有効に進めるためには、通訳者養成の基礎を学部学科の段階で訓練するプログラムが不可欠でした。そこで、個別の講座ではなく、具体的で高い目標を掲げての４年間の学部教育の再編に着手しました。

中国の協定校である語学系名門大学各校からも、学部の当該講座の充実に伴って、志向性のはっきりした優れた留学生が多数交換留学や自費留学で続々と来学するようになっていました。学部の講座を受講してから大学院に進学を希望するものが増えて

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

きたことも背景にあり、内外の要請は待ったなしでした。

それまでの外国語学部の中国語専攻コースを、ゼロ出発や相応の学習歴のある日本人学生も受け入れつつ高度な目標達成をめざす「日中通訳翻訳プログラム」に特化した新しい中国語学科として立ち上げ、2011年４月から開講しました。１年次からの定員30名、３年次からは編入生も受入れるように設計して現３年目を迎えています。

学部から大学院まで、日本人学生も中国人留学生も、通訳者翻訳者を目指すことに特化した教育体系がほぼ形を整えることができてきました。

（三）　グローバル人材育成推進事業

上記のような人材育成の取り組みを進める流れの中で、「グローバル人材育成推進事業」のGPに大学として応募することになり、杏林大学は平成24年度グローバル人材育成推進事業の計画書を文部科学省に申請し、去年（平成24年）９月に採択されました。

この事業は平成28年度までの５ヵ年計画で、外国語学部、とりわけ中国語学科を中心に中国語圏で活躍できる「卓抜した語学力」と「スマートでタフな交渉能力」を兼ね備えた３か国語グローバル人材を養成することを目指します。筆者は実施責任者として本事業の主な取り組みを以下に紹介します。

１．卓抜した語学力の養成

「卓抜した語学力」とは「責任ある仕事を遂行できるレベルの語学力」を意味します。独自に開発した実践的語学教育プログラムを少人数クラスで実施することに加え、ネイティブスピーカーと目標言語のみでコミュニケーションをする「中国語サロン」のほかに「英語サロン」の常設、中国の名門大学から来ている留学生との積極的な交流、e-ラーニング（情報通信機器を生かした学習）、CNN・BBC・CCTV等の常時放映・視聴、同時通訳システムの積極的活用などを通して、より実践的な語学力の習得を目指します。

２．スマートでタフな交渉能力の養成

「スマートでタフな交渉能力」とは「両国の文化と教養に精通し、文化的慣習をわきまえ、対等に交渉することでアクティブな結論を導き出せる能力」を意味します。留学等の「プログラム修了プレゼンテーション」や「卒業研究報告会」を中国語あるいは英語で行い、母語話者との質疑応答能力を外部評価委員が判定することで学習成果を評価します。

３．海外留学、研修の推進

「卓抜した語学力」や「スマートでタフな交渉能力」を兼ね備えたグローバル人材を育成するために、海外留学は極めて重要な位置を占めます。留学を通して、グローバル人材として備えるべき知識・能力を習得できるようなシステム「主体的な留学プログラム（Active Studying Abroad Program: ASAP)」により、学士課程終了まで一貫したサポート体制を敷いています。学士課程を終えた後、新しい留学をスタートする、あるいはさらに大学院へ進学する学生もいます。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

(四)海外教育機関との連携

中国の数多くの国家重点大学と学術交流協定を締結しています。北京語言大学、北京第二外国語学院、北京外国語大学、上海外国語大学、天津外国語大学、広東外語外貿大学、大連外国語大学など中国の外国語系名門大学のほかに、中国各地の総合大学、台湾や香港の大学も含まれています。また今年(平成25年)の3月には、中国の北京大学と学術交流協定を締結しました。

協定校との交流活動はダイナミックな進展を見せています。理事長や学長を始め、教職員の相互訪問、若手教員の研修、留学生の相互派遣、教材開発、学術交流などの面で多大なる成果を挙げています。

北京語言大学、北京第二外国語学院、北京外国語大学の客員教授である筆者は、中国の大学の要請に応じて、多くの大学で通訳翻訳に関する集中講義を行い、教材開発などにも力を注いでいます。集中講義が行われる際には中国外交部や中日友好協会などの職員の講義出席も受け入れることで、日中の公的機関の人材育成にも力を入れています。それにより本学の存在感がより際立つようになりました。また毎年中国で開催される全国通訳コンテストの審査委員長や学術シンポジウムへ日本からの唯一のスペシャルゲストとして招請され参加しています。2012年9月に筆者は北京大学日本語MTIセンター(通訳翻訳修士課程)の名誉センター長を拝命しました。以下、最新の交流状況を写真で紹介します。

2012年5月28日、本学協定校である広東外語外貿大学を訪問し、同校の「著名教授フォーラム第181回」で「中日同時通訳者養成モデルの探求」と題する講演を行うとともに、先方の要望である本学への編入生の派遣、夏季集中講座開催等、本校との提携関係の強化について打ち合わせました。また広東外語外貿大学の仲偉合学長との会見では、杏林大学との協力関係をさらに強めていきたいとの意向が表明されました。

北京大学日本語MTI(通訳翻訳修士課程)センター開校式の会場(「人民網日本語版」2012年9月11日記より)。筆者が北京大学MTIセンター名誉センター長に就任。同年10月、北京第二外国語学院で開催された第5回全国大学多言語通訳大会及び第6回MTI2012年シンポジウムに出席。(右の写真は新華網日本語版より筆者が審査員代表として大会の締めに講評した様子。)

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

2012年12月21日～24日、北京外国語大学では日本語学部３～４年生の学生を中心におよそ110名が講演会場いっぱいに詰めかけました。会場の雰囲気や学生達の姿勢からは、この得難い機会を逃すまいとする意気込みが感じられ、緊張感の中にも話の流れに対する反応がとてもよく、ときおり笑い声が上がる和やかな雰囲気のなかで講演が行われました。その後、同時通訳ブースでの大学院生中心の集中講義も実施されました。

2013年３月、北京第二外国語学院副学長一行は本学のグローバル人材育成推進事業シンポジウムに参加し、同時通訳教室などの施設を見学しました。

2013年５月、６月、北京語言大学、北京外国語大学、天津外国語大学、上海外国語大学、東華大学、大連外国語大学、大連大学を訪問し、先方の教職員との交流のほか複数の大学で集中講義を行いました。

2013年７月、北京語言大学の教員が本学にて来日研修。指導法の共同研究、学生・院生への講義、今後の交流に向けての協議などを行いました。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

（五）本学の特色

１．優れた学習環境―大学院日中通訳・翻訳研究コース

国際言語コミュニケーション専攻における日中通訳・翻訳研究コースというのは、通訳者・翻訳者として活躍することを目指した学生が集まり、日々学んでいくというコースです。

指導しているのは、1972年以来40年間日中通訳の第一線で活躍してきた第一人者である筆者をはじめとする現場経験豊富な教師陣です。最近も、日英通訳者の第一人者である小松達也氏、外務省や中国駐日大使館などの方々にお越しいただき、現場の雰囲気や実際のエピソードを交えながらの講義を行っていただきました。学生たちは、ほかでは聞くことのできない貴重な機会で、とても勉強になったと感想を語り、日常の授業に一層励むようになっていくのです。

通常の授業は、実践的な練習がメインとなります。ベースとなるテキストに沿った授業という枠にとらわれず、最近起きた話題の出来事の中から特に重要な問題を取り上げ、逐次並びに同時通訳の練習を行っていきます。こうした授業を通じて判断力と瞬発力などの通訳には欠かせない技能を身につけさせています。

また、授業は同時通訳演習室で行っていますが、同時通訳ブースなどのメカを実際に使いながら、マイクを使って通訳現場で要求される発声や表現を訓練しています。

杏林大学は日本の大学院の中でも唯一、日中通訳・翻訳の授業を受けられる“場”です。このように実践的な授業内容と現場経験の豊富な教員・“師”による指導、そして志を同じくする“友”という学習環境はとても得がたいものであり、魅力的だと思います。院生たちはこのような環境のなかで、通訳・翻訳の技術向上のため、そしてともに欧米並みの実力・資格・学位をめざして、実技訓練とともに通訳・翻訳理論や歴史、欧米や中日との比較研究に日々取り組んでいます。

２．優れた課程設計と学習環境―外国語学部中国語学科

日本人学生は、１年目に月曜から金曜まで週６コマ、年間約300時間の集中特訓を行い、２年目には中国語圏の大学に留学。３年目からは、中国からの留学生と席をならべて切磋琢磨するという設計で、入学当初から、上級生や留学生との交流の中で、明確な目標もつことができるようになっています。覚えたことをすぐに使って交流できる場が日常的に周囲に用意されているので、できない、使えないという言い訳は通用しません。

教員もほとんどが、通訳翻訳や海外駐在などの実践現場での経験豊富な陣容で、将来、どのようなスキルが必要とされるか実感をもって認識していますので、初歩の指導から、留学前の準備、留学帰国後の更なる高みへと有効な指導をめざしてチームとしての力を発揮しています。

担当教員たちのきめ細かい指導もあって、学科は順調に進行し、現在、３年の上級クラスでは、留学を終了して帰国した日本人学生15人ほどに留学生30人ほどで、満員状態になるほどの盛況です。留学生は、北京語言大学・北京第二外国語大学・北京外国語大学・上海外国語大学・天津外国語大学・広東外語外貿大学・大連外国語大学・東華大学・河北大学などからで、１年留学・半年留学の学生たちです。大学によって

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

は、一度に５～６名の学生を送り込んできます。今年度からは、３年次に編入して２年間学部で訓練を受ける留学生も来学しています。

留学時代には、外国人としての中国語教育を受けてくるのですが、帰国して杏林にもどると、上級レベルの日本語を身に着けた留学生と同席での訓練が始まります。互いに教えあい、直しあって、授業以外の場所でも交流が始まります。大量の宿題や、課題発表のパフォーマンスも、いつも目標言語のネイティブスピーカーの仲間と切磋琢磨することが、日本人学生にも留学生にも好評です。

３．留学･研修プログラムの充実

杏林大学では短期から長期までニーズに合わせた留学・研修プログラムを用意しており、毎年100人前後の学生がアメリカ、イギリス、中国などの国で実施する語学研修、派遣留学、交換留学に参加しています。

中国各地の名門校との学術交流協定に基づいて､多くの優秀な学生が本学に交換留学･派遣留学･編入学にやってきますし､その後､大学院正規入学のかたちで本学で通訳学･翻訳学の実践と理論の研鑽を希望する者が続出しています。協定校はここ２、３年の間に多数増え、中国語圏では留学生受け入れ先としての杏林大学の評価も次第に高まってきています。国際交流をさらに進めるため、本学では2011年から留学生の学費減免措置や成績が優秀な私費外国人留学生に奨学金を給付するなど留学支援制度を拡充しました。

本学の学生も中国各大学で中国語を学んでいます。留学サポートとして、独自の奨学金制度や授業料等減免制度による経済的支援のほか、専門の教職員による留学前・留学中・留学後のきめ細かな指導・支援を行っています。

本学は真のグローバル化を目指して、学習意欲の高い留学生にこのような大いに勉強できる国際学習環境を提供しています。

４．杏林大学の中国語サロン

杏林大学には、授業の空き時間に誰でも自由に入室できる学習室である「中国語サロン」という常設の部屋があります。中には中国語テレビ放送や中国関連の雑誌、書籍を揃えています。

中国語サロンは、中国語ネイティブスピーカーの教員だけでなく、中国からの留学生がチューターとして常駐しており、中国語を学ぶ学生にとって生きた中国語に触れられる絶好の場所となっています。最近は、留学前・留学後の学生だけでなく、中国語を勉強し始めたばかりの１年生や、外国語学部以外の学生も積極的に参加しています。

チューターたちは新聞や雑誌、インターネットなどを通して常に新しい情報やトピックスを用意して、サロンでの会話を通して、流行している物事や若者の考え方等、中国の“現在”をタイムリーに伝えています。

(六)留学を目指す諸君への助言

最後に、海外留学を希望している学生諸君に留学生活について助言したいことがあ

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ります。

まずは上を目指していることを常に念頭に置くことです。留学先で、同じ母語同士とのきずなが強くなる一方、つい外国語を使うことに気が緩んでしまう傾向があります。そして瞬く間に時が過ぎ、絶好の学習チャンスを有効に使いきれなくなりがちです。留学に行くと同じ母語の留学生の枠にととまらず、身につけた外国語を大胆に生かして現地の人と交流し、積極的に異文化に触れあうべきです。勉強以外のことに目を奪われすぎないように､勉強時間をしっかり確保するのは言うまでもないことです。

また高度の言語コミュニケーション能力を身に付けるには長年の地道な積み重ねが不可欠です。留学を終えても納得できるまで粘り強く精進してください。

プロの通訳者を目指す人々へのメッセージ

アジア圏では、もともと東京、香港、シンガポールを中心に国際会議が数多く開催されていましたが、その場所が、次第に北京、上海、広州に移りつつありますし、中国に進出する日系企業や日本の外務省を始め地方自治体も優れた通訳の人材を求めているため、中日間の通訳市場には非常に潜在力があります。通訳の人材の育成に関しては、通訳技能を学ぶだけではなく、政治外交、経済貿易、金融、IT、環境保護などの知識も不可欠です。本学の日中通訳・翻訳研究コースを通じて、中日両国の国情に詳しく、両国の言語を使いこなせる人材をより多く養成したいと願っています。若い学生たちに力を注ぐのみならず、優秀な教員を養成していくことも念頭においています。今後、両国間で立派な通訳者が大いに活躍されることを期待しています。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.